

コミュニケーション技術

問題 74 次の記述のうち、利用者とのコミュニケーションの場面で用いる要約の技法として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 開かれた質問をして、利用者の気持ちを明らかにした。
- 2 共感しながら話を聞き、利用者の気持ちを受け止めた。
- 3 話の途中でうなずき、利用者の気持ちに同意した。
- 4 話の内容を総合的にまとめて返し、利用者の気持ちを整理した。
- 5 自己覚知を図り、利用者との人間関係の形成に努めた。

問題 75 次の記述のうち、利用者と家族の意向が異なるとき、家族とのコミュニケーションにおいて介護福祉職が留意すべき点として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 家族に支援方針を決めてもらう。
- 2 家族を通して利用者の意向を聴き取る。
- 3 家族と話す機会を別に設ける。
- 4 家族にカウンセリングを行うことを意識する。
- 5 家族を説得する。

問題 76 **A**さん(80歳、男性、要介護3)は、介護老人福祉施設に入所している。

アルツハイマー型認知症(dementia of the Alzheimer's type)が進行している。ある日の昼食時、介護福祉職が**A**さんに配膳すると、「お金はこれしかありません。足りますか」と小さくたたまれたティッシュペーパーを渡してきた。

このときの**A**さんに対する介護福祉職の対応として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 ティッシュペーパーは、口の周りが汚れたら拭くものだと伝える。
- 2 ティッシュペーパーが不足しているサインとして受け止める。
- 3 飲食店での会計の場面であると認識して対応する。
- 4 食事に集中するように促す。
- 5 小遣いの増額を家族に相談する。

問題 77 構音障害のある**B**さんは、現在発語訓練を実施中である。ある日、介護福祉職に対して、「おあんで、あつがおごれた」と訴えた。介護福祉職は、**B**さんの発語をうまく聞き取れず、「もう一度、言ってください」と伝えた。**B**さんは、自身の発語で会話を続けようとしているが、介護福祉職には、その内容を十分に理解することができなかった。

このときの、**B**さんに対する介護福祉職の判断として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 **B**さんは言葉の意味の理解に支障があるため、会話の継続は困難である。
- 2 発音が苦手なため、短い言葉でゆっくり話してもらう必要がある。
- 3 話す意欲があるため、開かれた質問が有効である。
- 4 発語訓練の効果がみられないため、訓練を中止する必要がある。
- 5 **B**さんの言葉が聞き取れないため、会話を中断する必要がある。

問題 78 Cさん(55歳、男性)は、知的障害がある。3か月前に、施設から居宅での一人暮らしに移行し、現在は、居宅介護(ホームヘルプサービス)を利用しながら生活している。ある日、Cさんが、「ゴミ、分けて捨てるの、難しいよ」と言うので、室内に分別収集の説明書を貼って、カレンダーに収集日を書くことにした。そして、介護福祉職は、「この説明書とカレンダーを見て、捨てるといいですよ」とCさんに伝えた。その後、Cさんは努力していたが、分別できなかったゴミが少しづつ増えていった。

次のうち、Cさんにかける介護福祉職の最初の言葉として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 「ゴミでいっぱいになる前に、適切に捨てられるようになりますよ」
- 2 「説明書とカレンダーをよく見てください」
- 3 「ゴミが増えてきて、気持ち悪いですね」
- 4 「がんばっていれば、上手にできるようになりますよ」
- 5 「ゴミ捨ては難しいですよね。できることをいっしょに考えましょう」

問題 79 介護保険サービスにおける記録に関する次の記述のうち、最も適切なものを見1つ選びなさい。

- 1 記録に含まれないものとして食事チェック表がある。
- 2 介護記録は介護福祉職の意見を中心に記録する。
- 3 調査・研究目的で記録を利用するることは避ける。
- 4 主観的情報と客観的事実は区別しないで記録する。
- 5 利用者は記録の閲覧を請求することができる。